

2016 年度事業報告

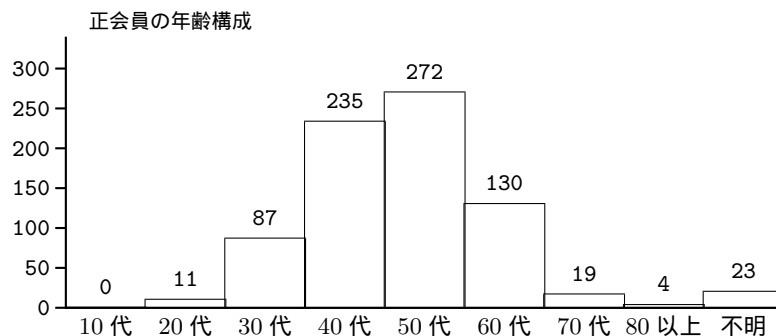
1. 会員

2017 年 3 月 31 日現在の会員状況は次の通りである。

正会員	781名	準会員	18名
名誉会員	6名	団体会員	5団体
学生会員	44名	賛助会員	3社

2016 年 3 月 31 日時点での正会員数は 810 名であり、そこから 29 名減少したことになる。

正会員の年齢構成を次のグラフに示す。50 才以上の正会員が 56%程度、40-49 才の正会員が 31%程度、30-39 才の正会員は 11%程度である。なお、20 代の正会員が少ないが、学生会員の多くは 20 代であろう。



2. 会議の開催

2.1 総会（2016 年度）

日 時：	2016 年 6 月 23 日（木）18:00～19:00
場 所：	国立情報学研究所 12 階 1210 会議室
出席者：	代表会員 33 名（委任状を含む）（代表会員総数 38 名）
議 案：	第 1 号議案 2015 年度事業報告の承認の件
	第 2 号議案 2015 年度決算の承認の件
	第 3 号議案 2016-2017 年度役員選任の件

議決の定数を超える 33 名（委任状を含む）の出席があり、加藤和彦理事長を議長に、第 1 号議案、第 2 号議案を審議し、決算が適正であるとの 2015 年度監事の報告を受けて、満場一致でこれらを承認した。続いて第 3 号議案について審議し、役員候補者選挙で選出された役員候補者を役員として選任することも満場一致で議決した。

2.2 理事会・役員会

理事会は、第 27 回（2016-05-19）から第 31 回（2017-03-16）まで 5 回開催した。役員会は、第 35 回（2016-05-19）から第 41 回（2017-03-16）まで 7 回開催した。2016 年度の理事及び監事は次の通りである。

理事長	丸山宏			
副理事長	八杉昌宏			
理 事	石川冬樹	石崎一明	伊藤貴之	河合栄治
	光来健一	櫻井祐子	高田真吾	高橋伸
	増原英彦	脇田建	鷲崎弘宜	

監 事 大須賀昭彦 中島震

2.3 評議員会

平成 27 年度 (2016-09-8) 評議員会を東北大学片平キャンパスにて開催し, 学会運営について討議した. 評議員会開催時における評議員は次の通りである.

牛島和夫	大沢英一	大堀淳	大蒔和仁	大和田勇人
笈捷彦	片山卓也	亀山幸義	佐々政孝	佐藤周行
佐藤雅彦	柴山悦哉	武市正人	田中英彦	田中譲
玉井哲雄	近山隆	土居範久	都倉信樹	所真理雄
中島震	中島秀之	中田育男	橋田浩一	平田圭二
深澤良彰	二木厚吉	二村良彦	古川康一	本位田真一
溝口文雄	森下真一	米崎直樹	米澤明憲	

3. 事業

3.1 機関誌編集

第 337 回 (2016-04-14) から第 341 回 (2017-02-06) まで, 5 回の編集委員会を開催し, 学会誌「コンピュータソフトウェア」第 33 巻 2~4 号および第 34 巻 1 号を発行した. これらは全て, サイバー増大号であり, 冊子体とサイバーページ (電子出版) から構成した. また, 「サーベイ論文」(第 33 巻 2 号), 「ネットワーク技術」(第 33 巻 3 号), 「ソフトウェア論文」(第 33 巻 4 号), 「実践的 IT 教育」(第 34 巻 1 号) の 4 回の特集を組んだ.

解説論文や解説記事の充実を図った. その結果, 第 33 巻 2 号から第 34 巻 1 号までの合計で, 解説論文 10 編, ソフトウェア論文 4 編, フォーラム 6 編が掲載された.

第 20 回研究論文賞として, 以下の 2 件を選定した.

- ・ 佐藤 洸一, 菊池 健太郎, 青戸 等人, 外山 芳人: 「項書き換えシステムの変換を利用した帰納的定理自動証明」 Vol. 31, No. 1 (2015)
- ・ Kimihiro Mizutani, Takeru Inoue, Toru Mano, Osamu Akashi, Satoshi Matsuura, Kazutoshi Fujikawa: 「Stable Load Balancing with Overlapping ID-space Management in Range-based Structured Overlay Networks」 Vol. 32, No. 3 (2015)

また, 第 6 回解説論文賞として, 以下の 2 件を選定した.

- ・ 大堀 淳: 「LR 構文解析の原理」 Vol. 31, No. 1 (2015)
- ・ 吉岡 信和, 田辺 良則, 田原 康之, 長谷川 哲夫, 磯部 祥尚: 「モデル検査による設計検証」 Vol. 31, No. 4 (2015)

2016 年度の編集委員会の構成は次の通りである.

編集委員長	千葉滋				
編集副委員長	岩崎英哉	河内谷清久仁			
編集担当理事	増原英彦	高田真吾			
編集委員	青木利晃	青谷知幸	明石修	阿萬裕久	石井大輔
	石川冬樹	和泉順子	馬谷誠二	大場みち子	河合栄治
	川端英之	糸野文洋	栗原一貴	栗原聡	神田陽治
	河野健二	河野恭之	小林隆志	小宮常康	櫻田英樹
	佐藤進也	沢田篤史	首藤一幸	住井英二郎	高田真吾
	高橋伸	寺田努	戸辺義人	中野圭介	林晋平

松田一孝	松野裕	美馬義亮	望月茂徳	門田暁人
結縁祥治	横山大作	鷲崎弘宜		

3.2 企画委員会

合計 3 回の企画委員会を開催し、各種の企画にあたった。2016 年度は、学生や企業の技術者を中心に大会参加者を増加させ、インターネットを通じて学会活動を広くしらしめるための企画、および各研究会の交流を活発にするための企画に重点をおいた。具体的には、学会内外から魅力的なスピーカーを集めた講演会 FTD (Future Technology Design) を企画した。

2016 年度の企画委員は次の通りである。

企画委員長	脇田建			
企画担当理事	脇田建	伊藤貴之		
企画委員	青柳滋己	網代育大	大越匡	來間啓伸
	角岡幹篤	松野裕	横山大作	
	森畑明昌	清雄一	綾塚祐二	吉岡信和
	廣海緑里	荒堀喜貴	栗原聡	吉田則裕

3.3 大会

2016 年 9 月 7 日～9 日に、東北大学 片平キャンパスにおいて第 33 回大会を開催した。また 9 月 6 日には併設イベントを開催した。

FTD 2016, 招待講演, トップカンファレンス特別講演, 基礎研究賞特別講演, 特別セッションを企画した他, 一般セッション, 研究会セッション, ソフトウェア論文セッション, デモ・ポスターセッションを設けた。基礎研究賞特別講演と特別セッションは前回大会, 研究会セッションとソフトウェア論文セッションは第 27 回大会で導入したものをそれぞれ継承したものである。FTD (Future Technology Design) は第 30 回記念大会から企画したものである。第 29 回大会から大会本体の登壇発表者の条件を緩和したことから, 第 32 回大会に引き続き, 第 27 回以降の大会の併設企画であった「学生セッション」(ただし, 第 28 回大会にて「萌芽セッション」に名称変更し, 第 30 回記念大会では大会本体に含めた)を設置しなかったほか, デモ・ポスターセッションにおいて「予稿なし」のみとすることも継承した。学生奨励賞は第 27 回大会で導入したものを継承しつつ, 学生の講演者を対象とした。

大会参加者は, 158 名(正会員 91 名, 学生会員 4 名, 協賛団体学生 7 名, 一般非会員 12 名, 学生非会員 41 名, 招待講演者 1 名, 基礎研究賞特別講演者 2 名)であった。発表件数は, 招待講演 1 件(徳田英幸氏), 基礎研究賞特別講演 2 件(河野健二氏, 胡振江氏), トップカンファレンス特別講演 8 件, 一般セッション 25 件, 研究会セッション 35 件(PPL: 22 件, rePiT: 4 件, FOSE: 7 件, MACC: 2 件), ソフトウェア論文セッション 2 件, デモ・ポスターセッション 10 件であった。また, 9 月 8 日に, 「FTD2016 (Future Technology Design)」を大会企画として開催した。また, 9 月 6 日に大会併設イベントとして, チュートリアル「ソフトウェアリポジトリマイニングのすすめ」, PPL サマースクール 2016 「商用 Java 処理系の研究開発」の 2 件を開催した。チュートリアルへの参加者は 20 名, PPL サマースクールへの参加者は 31 名であった。

講演論文集は無線 LAN を通じてオンラインで参加者に配布した。大会終了後, 製本したものを講演論文集 (ISSN 0913-5391) として国立国会図書館に納本した。大会の詳細

細な内容は、学会誌記事「日本ソフトウェア科学会第33回大会報告」(光来健一, 上野雄大 著, Vol.34, No.1, pp. 39-51, 2017) で報告されている。

大会における優れた登壇発表に対して与えられる高橋奨励賞は、次の2件である。

- ・江本健斗 (九州工業大学) : 「大規模グラフ並列処理のための関数型領域特化言語 Fregel とその評価」
- ・佐藤重幸 (高知工科大学) : 「一般化 N 体問題アルゴリズムに対する局所性向上技法」

学生奨励賞は、次の3件である。

- ・Thanh-Chung Dao (The University of Tokyo) : 「In-memory Hadoop on supercomputers using external memory of additional nodes」
- ・佐竹佑規 (筑波大学) : 「Temporal Dependent Contracts for Higher-Order Functions」
- ・水野雅之 (東北大学) : 「無限の入出力を行う関数型プログラムの K 正規化の形式的検証」

第33回大会の役員は次の通りである。本大会では第32回に引き続きプログラム副委員長、デモ・ポスター委員長を設けた。

大会委員長	大堀淳
運営委員長	上野雄大
プログラム委員長	光来健一
プログラム副委員長	松崎公紀
デモ・ポスター委員長	青谷知幸
広報委員長	山田浩史

プログラム委員	青谷知幸	石川冬樹	岩崎英哉	上野雄大
	鶴林尚靖	栗原聡	光来健一	小宮常康
	櫻井祐子	杉山安洋	清雄一	中野圭介
	日高宗一郎	福本雅朗	藤本衡	前田俊行
	松崎公紀	丸山勝久	森畑明昌	門田暁人
	八杉昌宏	山田浩史	吉田則裕	脇田建
	鷲崎弘宜			
大会担当理事	石川冬樹	鷲崎弘宜		

3.4 講習会

2016年度は大会中のイベントとして、大会併設 PPL サマースクール、チュートリアル、特別講演会 FTD (Future Technology Design) を開催した。

- (1) 「ソフトウェアリポジトリマイニングのすすめ」(2016-9-6)

3.5 研究会

2016年度は、次の8研究会が活動した。各研究会の主な活動は下記の通りである。

- (1) 「プログラミング論」研究会 (主査: 岩崎英哉)
第14回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール (PPL Summer School 2016) の主催 (2016-9-6、大会併設)

- 第 33 回大会 PPL セッションの実施 (2016-9-7~9)
 第 19 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ (PPL 2017) 主催 (2017-3-8~10)
- (2) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査: 櫻井祐子)
 第 33 回大会 MACC セッション開催 (2016-9-9、大会中)
 合同エージェントワークショップ & シンポジウム (JAWS2016) プレイベ
 ント「マルチエージェントスクール」主催 (2016-9-15)
 合同エージェントワークショップ & シンポジウム (JAWS2016) 」共催
 (2016-9-16~17)
 クラウドソーシング研究会への協賛
- (3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査: 福本雅朗)
 第 24 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワーク
 ショップ (WISS 2016) 主催 (2016-12-14~16)
 情報処理学会インタラクシオン 2017 に協賛
 エンタテインメントコンピューティング 2016 に協賛
- (4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査: 杉山安洋)
 日本ソフトウェア科学会大会 FOSE 研究会セッション開催
 (2016-9-7~9)
 ワークショップ FOSE2016 主催 (2016-12-1~3)
 コンピュータソフトウェア誌「ソフトウェア工学の基礎」特集号
- (5) 「インターネットテクノロジー」研究会 (主査: 藤本衡)
 WIT2016 (第 17 回インターネットテクノロジーワークショップ) を主催
 (2016-7-15~16)
 IC2016 (インターネットコンファレンス 2016) を後援 (2016-10-11~12)
 コンピュータソフトウェア誌「ネットワーク技術特集号」
- (6) 「ディペンダブルシステム」研究会 (主査: 前田俊行)
 ワークショップ DSW2016 開催 (2016-12-14~15)
- (7) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査: 栗原聡)
 JWEIN-Summer ワークショップ開催 (2016-8-31~2016-9-2)
 JWEIN-DOCMAS 合同合宿 (2016-12-14~16)
- (8) 「実践的 IT 教育」研究会 (主査: 鷓林尚靖)
 大会研究会セッション開催 (2016-9-7~9)
 第 3 回実践的 IT 教育研究シンポジウム主催 (2017-1-26)

3.6 共催・協賛

会議等の共催・協賛・後援の承認件数は以下の通りであった。

共催: 0 件 協賛: 11 件 後援: 3 件

3.7 広報関係

本学会の Web ページ (<http://www.jsst.or.jp/>) および会員メーリングリスト (jsst_members@jsst.or.jp) を通じて、会員への情報提供を行った。会員メーリングリストを通じた、コンピューターソフトウェアのサイバーページ掲載論文・サイバー増大号の冊子体部分のオンライン公開のお知らせも続けている。Twitter のアカウント

(JSSST_Info) を通じた広報活動も継続している。

3.8 基礎研究賞

ソフトウェア科学分野の基礎研究において顕著な業績を挙げた研究者に対して、基礎研究賞を授与しその功績を称える制度を 2008 年度に設けた。9 年目にあたる 2016 年度は、以下の 2 名を選定した。

- ・佐々政孝 氏（東京工業大学名誉教授）

授賞業績: コンパイラの基礎研究—最適化を中心として

授賞理由: 佐々政孝氏はプログラミング言語処理系の実装技術、特にコンパイラの基礎技術全般について、広範な研究を遂行したことで知られている。1980 年代から 90 年代にかけては構文解析器、及び意味解析器の記述体系を中心に研究を実施した。このなかで構文解析器、意味解析器、コード生成器に加えて、デバッガやテスト生成器等の周辺ツールを属性文法を用いて記述するプロジェクトを推進し、その過程で多くの有用なソフトウェアが生まれた。2000 年代にはコンパイラ・インフラストラクチャ COINS の中心開発者のひとりとして設計にあたり、主に静的単一代入形式を用いた新しい最適化手法を考案した。さらに、時相論理を用いて最適化器を記述する体系を提案するとともに、人が作成した最適化器の動作の正しさを時相論理等を用いて検証する研究を手掛けた。研究対象はコンパイラ実装のほぼすべての層に及び、その内容も記述の定式化、新しいアルゴリズムを用いた実装技術の提案、そして検証に及ぶ。氏が執筆した「プログラミング言語処理系」（岩波書店刊）はコンパイラ技術を体系的に紹介する優れた教科書として知られている。このように氏はコンパイラ研究をリードすると同時に、コンパイラの広範な技術を分かり易い文章で噛み砕き、研究開発コミュニティに対し顕著な貢献を果たしてきた。よって、日本ソフトウェア科学会は佐々政孝氏に基礎研究賞を授与することとした。

- ・後藤真孝氏（国立研究開発法人 産業技術総合研究所）

授賞業績: 音楽情報処理に関する研究

授賞理由: 後藤真孝氏は、音楽情報処理における第一人者である。1990 年代から音楽情報処理の研究を牽引し、「ビート検出」「メロディ推定」「サビ検出」「音源分離」「類似曲検索」など、確かな信号処理技術・統計処理技術に裏打ちされた斬新なシステムの提案を続けている。また、音楽情報処理研究を進める上で必要となる大規模データベース（RWC 研究用音楽データベース）の構築など分野全体の研究環境の向上にも務めた。近年では「歌声情報処理」という概念を打ち出し、合成歌唱技術の更なる高度化を目指して、「ばかりす」「ぼかうお」など最先端のシステムを続々と発表している。さらに、開発した技術を論文発表するだけでなく、Web サービスなどを通じて一般ユーザに広く開放し、UGC（ユーザ生成コンテンツ）全体の底上げを目指して幅広い活動を続けている。それらと平行して、「音声補完」「音声スポッタ」など、旧来の「音声認識」の枠組みを超え、音声を用いた独創的なインタラクション手法も提案して貢献した。その上、情報処理学会誌解説の一般販売売り切れと星雲賞受賞、一般向けの各種解説記事・講演など、学术界の一般社会への理解度を高めるための活動にも努めた。以上のように後藤氏は、音楽情報処理研究での先導的役割、研究分野全体の活性化、一般社会への研究成果のアピールなど、多方面にわたって顕著な貢献を遂げている。よって、日本ソフトウェア科

学会は後藤氏に基礎研究賞を授与することとした。

2016年度の基礎研究賞選定委員会の構成は次の通りであった。

丸山宏（理事長）

千葉滋（編集委員長）

大沢英一 笈捷彦 河野健二 中島秀之 二木厚吉

3.9 功労賞

これまでの学会活動に対して特に貢献が顕著と認められる会員に対し功労賞を授与して、その功績を称える制度を2004年度に設けた。2016年度は、以下の2名を選定した。

- ・田中二郎氏（早稲田大学教授）

授賞理由: 田中二郎氏は長くヒューマンインタフェースの研究にたずさわり、当該分野の研究者として国内外で高く評価されている。ソフトウェア科学会においては、インタラクティブシステムとソフトウェア研究会の設立時より運営委員、WISSプログラム委員長などを歴任してきた。2012年度から2015年度まで本会編集委員会委員長を務め、「コンピュータソフトウェア」誌の誌面の充実に多大な貢献をおこなった。とくに日本ソフトウェア科学会30周年特集や女性研究者特集などの優れた特集の編纂、研究会温故知新シリーズの企画などに手腕を発揮した。また非会員による投稿を一定の条件下で許す制度の設計、実施についても編集委員会委員長としてこれを主導した。以上の通り、田中二郎氏は本学会の学会活動に対して、特に貢献が顕著と認められる。よって本学会は同氏の功績を讃え、功労賞を授与する。

- ・石川裕氏（理化学研究所計算科学研究機構プロジェクトリーダー、チームリーダー）

授賞理由: 石川氏は、スーパーコンピュータ用の基盤ソフトウェア、並行オブジェクト指向言語、リアルタイムシステム等の様々なソフトウェア分野における研究において極めて顕著な業績を挙げ、著名な国際会議や論文誌に研究成果を紹介する多数の論文が採録されており、高い評価を受けている。また、基盤ソフトウェアに関する教育に関しても大きく貢献してきた。

石川氏は、特に、スーパーコンピュータ向けの基盤ソフトウェアに関して極めて顕著な業績を挙げ、日本の情報技術の発展に大きく貢献してきた。リアルワールドコンピューティングプロジェクトにおいて開発したSCoreは、多くの計算センターにおけるスーパーコンピュータの基盤ソフトウェアとして広く利用されている。また、PCクラスタコンソーシアムを主催し、Scoreの実世界への普及にも大きく貢献している。現在は、理化学研究所計算科学研究機構エクサスケールコンピューティング開発プロジェクトリーダーとしてポスト「京」の開発に携わり、情報科学だけではなく、日本の科学技術研究の発展にも大きく寄与している。

また、並行オブジェクト指向プログラミング言語に関してはOrient84/KやRTC++等の研究開発をおこなって来た。特に、リアルタイムプログラムを記述するためのプログラミング言語であるRTC++は、オブジェクト指向の概念をリアルタイムプログラミングに導入し、リアルタイムシステム、オブジェクト指向プログラミングに関する研究コミュニティに多大な影響を与えている。

以上のように、オペレーティングシステムやプログラミング言語等のソフトウェア分野における研究・教育面での石川氏の功績は顕著である。さらに、論文誌「コ

ンピューティングシステム」編集副委員長の歴任, オブジェクト指向計算ワークショップ (WOOC), プログラミングおよび応用のシステムに関するワークショップ (SPA) の運営等, ソフトウェア科学会の発展に対して多大の貢献をおこなっている。以上の通り, 石川氏はソフトウェア科学に対する貢献, 及び, 本学会の学会活動に対して, 特に貢献が顕著と認められる。よって本学会は同氏の功績を讃え, 功労賞を授与する。

2016 年度の功労賞選考委員会の構成は次の通りであった。

丸山宏 (委員長)

明石修 大沢英一 大堀淳 柴山悦哉 玉井哲雄
千葉滋 萩谷昌己 本位田真一 八杉昌宏

3.10 フェロー

ソフトウェア科学の分野における発展に対して特に貢献が顕著と認められる会員に対しフェローの称号を授与して, その功績を称える制度を 2004 年度に設けた。2016 年度は, 以下の 2 名を選定した。

・上田和紀氏 (早稲田大学教授)

授賞理由: 上田氏は, 一貫してプログラミング論とプログラミング言語, 特に並行論理型言語の設計と実装, さらに並行計算の言語モデル等の分野で研究を重ね, 顕著な業績をあげてきた。1980 年代には, 第五世代コンピュータプロジェクトにおいて, 論理型言語に並行性を導入した新しい言語 Guarded Horn Clauses を設計・提案した。その単純にして明解な意味論はその後の言語, 計算モデルの研究に大きな影響を与え, 国内外を問わず高く評価されている。その後上田氏は, 階層的グラフ書き換えに基づく, 並行計算の統一的な言語モデルである LMNtal の設計と処理系の開発, またその応用として LMNtal を利用したモデル検査の研究等に取り組み, 数々の論文を発表している。最近では, ハイブリッドシステムの仕様を制約によって記述する宣言型言語 HydLa の設計とその処理系の研究など, 新たな方向への研究を展開している。このように, 常に理論面と実践面を両立させた上田氏の活発な研究活動は, 国際的にも広く認知され, 数多くの著名な国際会議でプログラム委員を務めている。上田氏は, 本学会の活動においても, 理事, 機関誌編集委員長, プログラミング論研究会運営委員を務めるなど, 本学会の発展にも尽力している。以上のように, プログラミング分野における上田氏の功績は顕著である。よって本学会はこれを称え, フェローの称号を授与する。

・中島秀之氏 (東京大学特任教授)

授賞理由: 中島氏は, 長年にわたりソフトウェア, 特にプログラミング言語と人工知能の先駆的分野の融合に関する研究に多大な貢献を行ってきており, 知識表現や知能の状況依存性などに関する業績が顕著である。研究の初期においては論理型プログラミング言語 Prolog に多重世界機構を導入した知識表現システム Prolog/KR を開発した。さらに, スタンフォード大学と共同で状況推論のための Prosit などを開発した。

その後, 研究の視点を単一の知能や知的主体から多数の知的主体の相互作用, つまりマルチエージェントシステムへと移し, 産業技術総合研究所においても協調アーキテクチャ, さらにサイバーストの研究のリーダーシップを執るようになる。ここでは, 新しい状況に対応できるシステムの構築手法として構造の動的変化や部分と全体との相互作用という特性を有した有機的プログラミングの概念を

提唱し、有機的プログラミング言語 Gaea を開発した。さらにこの考え方を発展させ、現在では複雑系と知能の関係性を解明するとともに全体論的 (holistic) システムの構築に向けた構成的方法論に関する研究を推進している。

この間、本学会においてはマルチエージェントと協調計算研究会 (MACC)、および、ネットワークが創発する知能研究会 (EIN) の設立に中心的な役割を果たし、人工知能研究の先端分野に関する日本における研究コミュニティの発足と発展に大きく寄与した。さらに、自律エージェントとマルチエージェントに関する国際会議 (AAMAS2006) をはじめとした人工知能分野における国際会議議長などを務め、人工知能研究の国際コミュニティに多大な貢献するとともに、JST さきがけ「知の創成と情報社会」の領域総括を担当することで萌芽的で先端的な研究の発掘と発展に尽力された。

2016 年度のフェロー選考委員会の構成は次の通りであった。

丸山宏 (委員長)

明石修 大沢英一 大堀淳 柴山悦哉 玉井哲雄
千葉滋 萩谷昌己 本位田真一 八杉昌宏

4. 選挙

2017 年度定時社員総会で任期満了となる役員に対する選挙は、2016 年 11 月 11 日に公示され、2017 年 1 月 6 日まで候補の推薦を受け付けた。その結果、役員選挙候補者 (理事) として 6 名、役員選挙候補者 (監事) として 1 名の立候補があった。全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され、正会員による投票に付された。投票は、2017 年 3 月 1 日から 2017 年 3 月 15 日までの期間に行われた。同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われた。結果は次の通りであった。

役員候補者 (理事) 選挙 選出

石崎一明 伊藤貴之 岩崎英哉
風間一洋 丸山宏 鷲崎弘宜

役員候補者 (監事) 選挙 選出

大須賀昭彦

役員候補者選考委員 信任

上田和紀 大堀淳 柴山悦哉 寺岡文男 本位田真一

役員選挙候補者 (理事・監事) 全員がそれぞれ、社員総会における役員選任の対象候補者として選出され、また、役員候補者選考委員全員が信任を受けた。

なお、この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りである。

選挙管理委員会

河野健二 佐藤周行 吉田健一